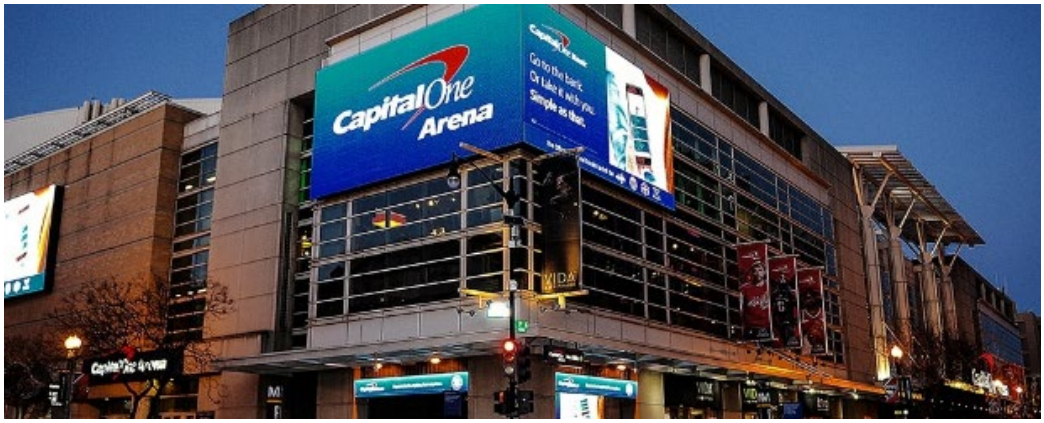
スタジアム・アリーナ米国事例調査

Capital One Arena[1]

本施設はワシントン DC のダウンタウンに民間資金で建設されたアリーナである。アリーナを所有・運営する Monumental Sports & Entertainment は、複数のスポーツ及びエンターテインメント施設の運営・経営を行っているほか、プロスポーツチーム 5 チームの所有や e-スポーツチームへの出資、スポーツ関連のメディアコンテンツプラットフォームの所有等、スポーツを中心に多角的な事業経営を行っている。本施設では年間約 230 件イベントが行われているが、最近、Caesars Entertainment との間で、本施設に直結したスポーツブック [2]の同社による運営にかかる契約を締結した。本施設は館内にスポーツブックを開設した初の米国プロスポーツ施設であり、この開設により本施設及び近隣地域への更なる人流増加を見込んでいる。

アリーナ外観



出所：Capital One Arena ウェブページ　https://capitalonearena.viewlift.com/articles/about-capital-one-arena

① 建設経緯

現在アリーナが立地している地域では、当時の市長らにより再開発が目指され、新設アリーナがその地域の再開発においてアンカーテナントとなるというビジョンが描かれていた。Wizards（NBA）及び Capitals（NHL）の当時のオーナーはワシントン DC 政府とパートナーシップを組み、本施設をワシントン DC のダウンタウンに建設し、両チームは隣接するメリーランド州から当地に本拠地を移転した。

開業当時、本施設は MCI Center という名称であったが、命名権を持つ MCI が Verizon Communications に買収されたことに伴い 2006 年に本施設の名称も Verizon Center に

[1] このセクションは、Monumental Sports & Entertainment へのインタビュー調査を基に取り纏めており、その他の情報ソースを参照した場合には、該当箇所に個別に脚注等をつけている。
[2] スポーツを対象に賭けを行うことができる場所

変更された[3]。その後、2017 年に Capital One Financial Corporation が命名権を得て、現在の施設名（Capital One Arena）となっている[4]。

② 施設概要

所在地	米国ワシントン D.C.
竣工	1997 年
建設費	220 百万ドル
土地所有者	Washington DC 政府
施設所有者	Monumental Sports & Entertainment
運営者	Monumental Sports & Entertainment
ホームチーム	Washington Wizards（NBA）、Washington Capitals（NHL）、Georgetown Hoyas 男子バスケットボールチーム（全米大学体育協会）
収容人数	Capitals: 18,506　Wizards:20,356
主な施設	アリーナ（バスケットボール、アイスホッケー）、ラウンジ 4 か所、クラブ 2 か所、スイート 108 室 賃貸スペース：飲食店舗、フィットネス店舗、サロン、スポーツブック
主な用途	バスケットボール、アイスホッケー、コンサート、ファミリーショー等
年間イベント実施件数	230 件以上

（出所：Monumental Sports & Entertainment へのインタビュー、Capital One Arena ウェブページ https://www.capitalonearena.com/、DowntownDC Buisness Improvement District ”Verizon Center Economic Impact” https://www.downtowndc.org/report/verizon-center-economic-impact/）

③ 資金調達

本施設は、Wizards（NBA）及び Capitals（NHL）の当時のオーナーにより民間資金で建設された。WorldCom/MCI が 20 年間の命名権の契約を得たが、この契約の終了後、2017 年からは Capital One Financial Corporation が命名権を得ている[5]。

公的機関の関与については、建設時に市政府により用地の準備と周辺の限定的なイン

[3] Verizon Communications ウェブページ”CI Center Will Be Renamed Verizon Center on Sunday, March 5” (Feb. 23, 2006) https://www.verizon.com/about/news/press-releases/ci-center-will-be-renamed-verizon-center-sunday-march-5

[4] NBA ウェブページ”MSE and Capital One Arena Announce New Arena Naming Rights Partnership”（Aug. 9、2017）https://www.nba.com/wizards/mse-and-capital-one-announce-new-arena-naming-rights-partnership

[5] NBA ウェブページ”MSE and Capital One Arena Announce New Arena Naming Rights Partnership”（Aug. 9、2017）https://www.nba.com/wizards/mse-and-capital-one-announce-new-arena-naming-rights-partnership

フラ開発が行われた。また、2007 年にスコアボードやスイート等のリノベーションを行ったが、このリノベーションの資金については市からの融資を受けている。この融資のため、チケット売上に課される市税の税率が 10%に引き上げられ、その一部が融資の返済に充てられている。

その他、過去 10～12 年の間には、スイートの再リノベーション、サイネージ、全ての座席の交換、屋根、音響システム等のリノベーションが行われている。直近のリノベーションは 2019 年に終了し、その費用は約 55 百万ドルであった。リノベーションの費用はすべてオーナーグループによる私費で賄われている。

④ 設計の工夫

本施設の使用率・収益性を高める観点での設計上の工夫としては、スイートを 108 室整備している点が挙げられる。スイートは年単位で企業、グループ及び個人にリースしており、アリーナで行われる全てのイベントで利用が可能である。プレミアムシーティングは本施設の収益に大きく貢献しており、スイートは開業からこれまでに複数回リノベーションを行っている。

また、最近の取り組みとして、2021 年 5 月に米国のプロスポーツ施設として初めて、アリーナに直結したスポーツブックが開設された [6]。米国ではスポーツベッティングは合法化されており、Caesars Entertainment 社がこの店舗の運営を行っている。この店舗は年間 365 日営業するため、この店舗の開設を通じて本施設が年間を通じて集客できる施設になることが期待されている。

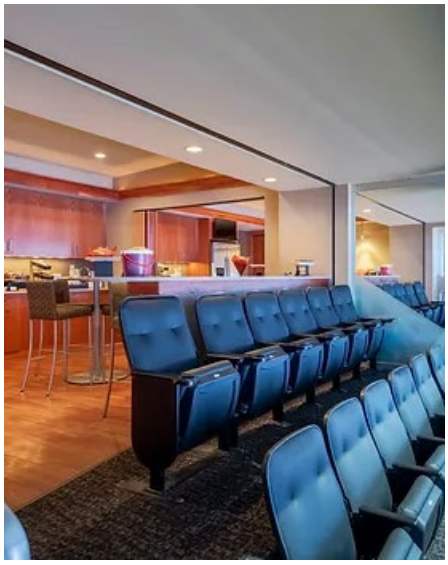
[6] NHL ウェブページ　“William Hill Sportsbook Officially Opens at Capital One Arena” (May 27, 2021) https://www.nhl.com/capitals/news/william-hill-sportsbook-officially-opens-at-capital-one-arena/c-325014882

バリアフリーの観点では、本施設は「障害のあるアメリカ人法」（Americans with Disabilities Act）に準拠[7]し、完全にアクセシブルな施設となっている。全ての階にアクセシブル席が設置されており、スイート室も全て車椅子でアクセス可能となっている[8]。

新設されたスポーツブック

出所：Monumental Sports & Entertainment 提供

スイート



出所：Capital One Arena Suites ウェブページ
https://www.capitalonearenasuites.com/tour-spaces

⑤ IT の活用

本施設では、2018 年～2019 年に最新の LED ビデオ技術を活用した大規模なリノベーションを実施している。その際に導入された設備には、360 度連続ビデオスクリーン、アリーナの四隅に設置された両面 TV ボード等があり、その他施設内のテレビスクリーンの増設、リボンボードの交換・増設、照明の交換等も行われた。コート中央上部に設置されたスコアボードは、米国のアリーナにおいては最も大型の 360 度連続ビデオスクリーンの一つで、8 つのディスプレイエリアがあり、プレー映像に加えてリアルタイムでスコアや最新情報を表示することができるものとなっている[9]。

Verizon Communication とのパートナーシップで 5G が導入されており、施設内は完

[7] 米国においては法律により、本施設のような大型施設は座席数の一定割合をアクセシブルシーティングにするなどの規定が定められている。

[8] Capital One Arena ウェブページ https://www.capitalonearena.com/articles/accessible-seating

[9] NHL ウェブページ “MSE Unveils Phase II of Renovations and Enhancements to Capital One Arena”（Nov.9, 2019）https://www.nhl.com/capitals/news/monumental-sports--entertainment-unveils-phase-ii-of-renovations-and-food-and-beverage-enhancements-to-capital-one-arena/c-311048988、Colosseo ウェブページ”Capital One Arena introduces visual entertainment revolution powered by Colosseo” （Oct. 30, 2019）http://www.colosseoeas.com/en/news/Capital-One-Arena-introduces-visual-entertainment-revolution-powered-by-Colosseo.html

全にキャッシュレス化している。クレジットカード、デビットカード、スマートフォンアプリによる決済のみ使用可能となっており、現金は施設内に設置されている ATM でデビットカードに変換が可能である [10]。

⑥ 運営

本施設は、Monumental Sports & Entertainment が所有し、運営を行っている。社内のグループが外部のプロモーターとも提携し、多くのイベントを企画・開催している。本施設では、ホームチームである Wizards と Capitals の試合による利用が約 4～5 割程度を占めているほか、ジョージタウン大学男子バスケットチームによる利用、コンサート、ファミリー向けのショー等が開催されている。また、プライベートイベント向けのスペース貸出や、NGO 等との協働によるコミュニティイベント（健康とウェルネス、展示会、等）の開催もあり、Wizards と Capitals がプレーオフに進出すれば年間の営業日は 230 日以上となり、本施設への来場者は約 3 百万人となっている。

Monumental Sports & Entertainment 社は、自身を総合スポーツ・エンターテイメント組織と位置づけており、スポーツチームの所有、本施設などの施設経営/運営、スポーツ関連のメディアコンテンツプラットフォーム、という 3 つの分野を中核として事業を展開している。それぞれの事業分野の概要は下記の通り。

- スポーツチームの所有 : Capitals（NHL）に加え、バスケットボールでは 4 リーグ（NBA（Washington Wizards）、WNBA（全米女子バスケットボール協会、Washington Mystics）、NBA 2K リーグ（e-スポーツリーグ、Wizards District Gaming）及び NBA G リーグ（男子バスケ育成リーグ、Capital City Go-Go））でチームを所有、また、世界的な e-スポーツ組織である Team Liquid を所有する aXiomatic にも出資。
- 施設経営/運営 : 広域ワシントン DC 地域において、本施設の他、大学のアリーナ、Capitals の練習施設、Wizards、Mystics 及び Capital City Go-Go の練習施設、e-スポーツスタジオの 5 施設の経営や運営を実施。更に、Monumental Sports & Entertainment 社は、エンターテインメント、ホスピタリティ及び e-スポーツの競技・練習施設として、本アリーナの隣に新しいベニュー（District E）の開設を最近発表している。
- スポーツ関連のメディアコンテンツプラットフォーム : ライブスポーツイベントを放送する OTT スポーツネットワーク、外国語（日本語、中国語、ヘブライ語、ポルトガル語、アラビア語）でスポーツファン向けのコンテンツを制作する会社を所有、Capitals と Wizards の試合を放送する地域のスポーツネットワークへの出資、Capitals 及び Wizards の試合のラジオ放送、屋外デジタル看板、受賞歴の

[10] Capital One Arena ウェブページ https://www.capitalonearena.com/articles/coa-a-to-z

あるクリエイターが所属する完全なオーディオ・ビジュアル制作ユニット等。

スポーツチームの所有はコンテンツという観点で大きな機会をもたらしており、当社は一体化したこれらの事業により、収益機会のみでなくブランド開発の機会を得ている。Capitals（NHL）及び Wizards（NBA）の試合でのアリーナ利用は、年間イベント件数のうちの 4～5 割程度を占めており、バスケットボールとホッケーという異なるスポーツのチームを所有し、アリーナをホームとして利用することにより、アリーナの稼働率が一定程度確保されている。また、八村塁選手の入団を契機に、Wizards が 2019 年 9 月より日本語版の公式ウェブページと SNS を開始[11]するなど、メディア事業は幅広くファンと繋がる手段となっている。

⑦ 経済的効果

近隣地域においては多くの商業開発が行われ、小売店、住宅、オフィスなどが増加していることから、本施設は近隣地域又はワシントン DC における開発の支え（アンカー）になったと考えられる。

本施設の経済効果については、DowntownDC Business Improvement District[12]が分析を行った結果を 2014 年に公表している。本施設の周囲 7 ブロックを対象として実施されたこの分析では、1995 年の本施設の最終建設計画発表から 2013 年までの間に完成した不動産プロジェクトの価値は合計 81 億ドル、同じ期間に行われた開発における雇用は 52,739 件、開発により生み出された税収は 33 億ドルと推計されている。DowntownDC Business Improvement District は、「Verizon Center が無くてもこの再開発の全てが起こったであろうが、Verizon Center は周辺地域の再開発を 7 年から 10 年早めた」との見解を示している[13]。

また、本施設では年間約 230 件のイベントを開催し、約 3 百万人が来場しているため、近隣地域に活気をもたらしている。更に、新たに開設したスポーツブック店舗は年間 365 日間営業のため、更に多くの人々をこの地域に呼び寄せ、今後も地域のビジネスを支援するものと予想されている。

⑧ 社会的効果

民間所有施設であるものの、本施設では年間数十件のコミュニティイベントが開催されている。本施設では多様なイベントを開催しているため、コミュニティの様々なグループにとって良い施設になっていると考えられる。

---

[11] Wizards 日本語版ウェブページ https://www.nba.com/wizards/jp

[12] ワシントン DC のダウンタウン 138 ブロックのエリアを対象として、サービス等を提供するプライベートな非営利組織。その地域に立地する不動産所有者が活動資金を拠出している。（https://www.downtowndc.org/who-we-are/）

[13] DowntownDC Buisness Improvement District ウェブページ"Verizon Center Economic Impact" https://www.downtowndc.org/report/verizon-center-economic-impact/

以上